

和歌山市駅とJR和歌山駅の比較とその改善

ヌルル アミラ ディアナ ビンティ ゴルキフリ
(システム工学部 正規留学生) (マレーシア)

5月18日土曜日、私は日本事情のフィールドワークに参加し、Cグループのメンバーとして和歌山市駅、JR和歌山駅とその周りを訪ねた。このフィールドワークを通じて、和歌山市駅とJR和歌山駅の設備とその近くで出来ることをより詳しく分かるようになった。

この2つの駅の共通点は駅の周辺に飲食店、コンビニ、銀行、スーパー、デパート、バスとタクシー乗り場、お土産の店と商店街があるということである。しかしこれらの設備はどちらかという、JR和歌山駅の方が多く、盛んである。そして残念なことに、この2つの駅の近くにある商店街ではフィールドワークの時に誰一人のお客さんも見えなかった。店もほとんどシャッターしている状態であった。この2つの駅の周辺にも人があまりいなかった。なぜこんな状況になっているのかとCグループのメンバーと話し合った結果、これらの商店街は夫人や老人向けの店ばかりなので、若者たちはみんな難波とか大阪の商店街に遊びに行ってしまったという意見が出た。また駅内にある看板は英語の通訳がないので、日本語が全く分からない外国人にとっては不便である。そこで、駅周辺の設備をどういう風に改善すればいいのか私たちは議論することにした。

まずは、駅内と周辺の看板を改善することである。全ての看板には英語の通訳を付け、トイレ等の看板をはっきりし、駅前に観光地とそこに行ける手段、どのぐらいの時間とお金がかかるかというような看板が置いておけば、外国人だけでなく日本人の観光客に対しても利益になるじゃないかと私たちが考えた。次に、駅の周辺に木、花壇、噴水を増やし、季節の美しさを強調するようなガーデンを作れば良いだろう。なぜなら、自然に近いものは人の心に癒し効果があるからである。おまけに、和歌山県は自然が豊かな県と呼ばれ、このガーデンを通じて自然を実際に身近に感じられると思う。最後に、商店街の改善である。正直に言うと私は色んな商店街に行ったことがないが、商店街は若者向けの店、飲食店と遊び場が多いというイメージが強い。それで、どんな商店街でも大体同じ店があると私は思ってしまう。そこで、どうやって人々を和歌山の商店街に行かせるのか、買い物しながら、あるいは遊びながら和歌山の独特の魅力が楽しめる商店街を考えてみれば、海のきれいな眺めが見えるほど海に近い商店街という案が思い浮かんだが、よく考えた後これを実現するのが難しいなと思う。



紀ノ川からの夏の夕方



色鮮やかな花壇



貴志川線のたま電車